



忘年会

兼 例会
(懇談会・ビデオ)

11月3日は
憲法が公布された日

第二章 戦争の放棄
〔戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認〕

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

岸田首相は、自分の総裁任期中に改憲すると明言しています。私たちも憲法を守り、生かす運動を強化する必要があります。あなたもスタンディングや例会に参加しませんか。

「9条改憲、原発、ウクライナ侵略戦争、物価高、地域の問題などについて話し合いませんか？」

10月1日(日)

8月2日放送のNHK「クロズアップ現代」『「はだしのゲン」はなぜ「消えた」?』を見ましたが、教育現場に不平等な圧力としか考えられないような事態が起こっていました。

戦後78年を迎えた今年、広島市の平和教育副教材から漫画「はだしのゲン」が削除され波紋が広がっている。原爆が投下された広島で、戦中戦後の苦難な時代を生き抜こうとする少年を描いた同作は、累計発行部数1000万以上。世界各国で読み継がれてきた。そんな「はだしのゲン」が、なぜ削除されたのか? 情報公開請求で入手した

膨大な改訂記録や、議論に關わった市教育委の担当者・教員たちの証言から、知られざる背景に迫る。(番組解説から)

▼圧力団体の圧力に屈した。責任者が、全くそのようなことはない、うそぶいていた。

▼削除されることになった経緯が疑問だ。

▼鯉を盗んだことと浪曲の2つで、なぜ削除理由になるのか。疑問だ。

▼鯉を盗んだことや浪曲を問題視しているが、説明すればわかることだ。

▼浪曲の視聴覚教材を作って見れば、理解させやすい。

▼大人の方で削除するのでなく、子どもに考えさせるべきだ。

▼鯉を盗んだが、盗みや殺人は世界的に優れた様々な文学作品

12月例会 兼 忘年会のお知らせ

12月は公民館を借りられなかったため、平川さん宅で例会兼忘年会を行います。たくさんの方の参加をお待ちしています。

月日/12月17日(日)

時間/11:00~14:00頃

場所/森の里3-22-4

平川さん宅

参加費/1,500円

差し入れ歓迎!

申し込み締め切り/

12月10日(日)

参加希望者は平川さんまでご連絡ください。(18時以降)

スタンディングと署名活動のお知らせ

日時: 12月3日(日) 10:00~11:00

場所: スーパー三和前

★どなたでもお気軽に参加大歓迎です。

★手作りの表示板の用意あります。

例)「キンダ政治を許さない!」

「9条壊すな!」

「NO WAR!」

「大軍拡・大増税反対!」

にも描かれている。こじつけだ。▼なぜ鯉を盗まなければならなかったのか、考えさせることが大切だ。

▼今の先生は抵抗できない。今の世の中のありようが怖い。▼「はだしのゲン」が不採用になったことについて、教員が決まったことだから仕方がないというのは、主体性がなく無責任だ。

▼広島では平和教育が後退している。ビデオに出てきた沖縄の小学校の実践は救いだ。

▼教職員組合が事実上なくなつて、上意下達の状況だ。それに対して沖縄の小学校の教員が、子どもたちに主体的に考えさせていたのは一つの救いだ。

▼子どもには強烈な印象だ。

▼違う場面のものでよかったのではないか。

▼「はだしのゲン」を読み始めたが、途中から怖くなって読むのをやめた。

▼作者の中沢啓治さんが、子どものときに見たり聞きいたりした実体験を絵にしたものだ。

▼沖縄戦、広島・長崎だけでなく、全国で同じようなことが繰り返り広げられていた。学習することになったときには、戦争の悲惨さは出てくる。

▼関東大震災でも陸軍被服廠は死体の山だった。日本人が朝鮮人と間違われて殺された福田屋事件が起こったが、朝鮮や中国

の人たちを見下していたからだ。秀吉の朝鮮侵略では、朝鮮の人たちの耳をそぎ落とした。

▼自公政権は自分たちに不都合な部分を隠そうとしていたが、間違ったことを繰り返さないように、事実をしっかりと見つめる事が大切だ。

▼安倍政権からつながる岸田自公政権が非常に右傾化している。それを押し返すエネルギーが足りない。

▼波照間島では1945年、日本軍が全島民を西表島に強制疎開させた。西表島はマラリアが蔓延して、3000人近くが亡くなった。忘れてはいけないことだ。桜井信夫の「ハテルマシキナ」よみがえりの島・波照間」は、この惨禍を語り継ぐ長編叙事詩だ。

▼北朝鮮の金正恩総書記が、憲法に「核兵器の発展の高度化」を明記すると言ったが、自公政権はミサイル防衛などではなく、外交で説得するべきだ。

▼ドイツでは歴代の首相がアウシュビッツを訪問し、過去の過ちを認めている。しかし日本では、村山首相以外に過去の過ちを認める発言をした人はいるのだろうか。

スタンディングと署名活動

10月15日(日)

雨天のため中止しました。



日本平和委員会代表理事で、全国革新懇代表世話人の石川康宏神戸女学院大学名誉教授によると、日本は「衰退途上国」だそうです。北欧では学費のほか、医療・介護も無料。それらは政治が責任を持って市民に提供するものとなっていて、日本とは大違いです。

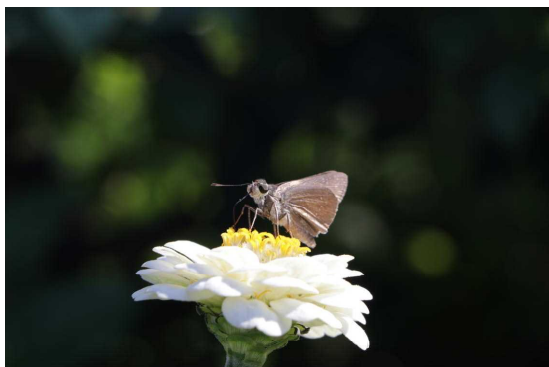
会報6月号にも書きました。日本は経済が長年停滞、人権・教育など様々な面で主要国中下位。どう見ても世界の主要国とは言えません。政治も安倍自公政権以降、憲法と民意軽視がひどくなりまし。特に沖縄県民の意思は完全に無視。まるで植民地扱いです。

9月4日、アメリカ軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画をめぐる裁判で、最高裁が県の上告を棄却する判決を言い渡しました。玉城沖縄県知事に、防衛省の設計変更を承認する法的義務が確定し、知事が窮地に陥っています。が、沖縄だけでなく、全国の市民で玉城知事を支えなければならぬと思います。ここで辺野古新基地建設反対の声を上げないのは、結果として容認するのと同じ。無関心であったりあきらめたりするのも、反対運動の

選択の余地を狭めるだけです。自公政権の「閣議政治」によって国会は形骸化。裁判所は政府の追認機関化。三権分立制が機能せず、この国は本当に民主主義国家なのかと、疑いたくなります。

憲法無視、軍事費や国の借金の膨張、円安、低賃金、物価高、貧富の差の拡大等々。どれも責任は自公政権にあり。当然です。しかし私たちも、自由と権利保持のため一層の努力が必要で。そうしないと日本は衰退するだけだと思えます。KI

※事務局では皆さんからの一言を募集しています。身近なエピソードやつぶやき、森の里のトピックスなど、何でもよいのでお寄せ下さい。先にお配りした葉書もご利用ください。



ヒャクニチソウとチョウ